

誰も排除されることのない 希望ある社会を目指して



NPO法人ふうどばんく東北AGAIN

就労サポートセンターあがいん 責任者
兼 サービス提供管理責任者

小 椋 亘

「皆さんは、どんな社会を希望していますか？」

この問いは、私たちがこれからどんな社会を創っていくのか、という問いでもあります。『これからの希望ある社会』は私たち自身で、持ち続け、そして実行し築き上げていく必要があると強く感じています。

数年前、東京の有名デパートで見た大型ポスターは、「幸せにかえるう」というキャッチフレーズでブータン国の写真が使われていました。これが一九八〇年代頃の高度経済成長時の日本なら「幸せになるう」とニューヨークなどの写真が使われ、幸せというのは「かえる」ものではなく将来なるもの、というイメージがあったのではないかと思います。この広告のポスターは、求める幸せの形に時代の変遷を感じる、とても印象深いものでした。

戦後の日本は、物質的に豊かになりました。しかし今、自殺率が世界ワースト一〇に入る多さであり、絶えず勝ち組を目指さなくてはいけない社会システムが展開されています。そして勝ち組になったとしても、どこか殺伐とした寂しさを抱えている人が多いのではないのでしょうか。

真の豊かさとは、他者を犠牲にして自分だけが得をする「自分だけ

の幸せ」ではなく、自分と同時に他者の幸せも願うような、誰もが排除されず、互いに納得できる関係や繋がりがあ、そこに私たちは安心や温かさや幸せを感じ、希望が持てるのではないかと思います。



提供された食料品

誰もが希望を持てる社会を フードバンク活動で

NPO法人ふうどばんく東北AGAINでは、食品ロス減と生活困窮者支援の二つの観点から、フードバンク活動に取り組んでいます。発足して九年、東北で一番古いフードバンク団体です。

宮城県全域を主な対象地域とし、ご家庭や企業から無償で寄贈いただく食糧を、日々、生活困窮者(個人や団体)へ無償でお届けしています。二〇一六年度の支援人数は延べ一、〇〇〇人を超えました。その内五、三〇〇名(四十八%)は被災困窮者であり、非被災困窮者

の支援も四、六〇〇名(四十二%)にのびました。いまや生活困窮は、社会全体の課題です。特に宮城県内の子どもたちの貧困が喫緊の課題です。当団体が食糧支援した二十歳未満の割合は、全体の二十%にのび、この数は日本全体の子どもたちの貧困率十三・九%をはるかに上回っています。

私たちの活動は、食糧を届けるだけでなく、困っている方を支援することを目指す。そのため、当団体では食糧支援を通して、行政や他団体と連携をおこないながら、生活で困っている背景を包括的にサポートするネットワーク構築強化をすすめています。

先日、見学に訪れた企業の社長さんは「こんな飽食の時代に、食べられない人がそんなに沢山いるのですか？」と驚いておられました。そう感じるのも無理はありません。

生活困窮に陥っている多くの家庭では、そのように見られたくないという理由で、食費や教育費を削って、子



仕分け中

どもの洋服にお金をかけたり、子どものスマートフォン所持率も生活困窮者世帯の方が高い現状にあり、とても見えにくくなっています。しかし、現実に私たちの事務所には「三日間、水しか飲んでない」「中学生の子どもにもスパイク靴を買ってあげられずに、野球の公式大会に出場させてあげられなかった」といった電話が寄せられています。

問題が見えにくい社会の裏を返すと、そういったことを見せにくい社会であるということでもあります。生活困窮が恥じであるとか、差別や偏見が社会背景にあることで、困っていてもSOSが出にくい事情があります。困っているも独りで耐え続け、隠し続けながら暮らしていかなくてはいけないほど、助け合うことが難しくなっている社会の在り方に、息が詰まるような苦しさ、寂しさを感じずにはいられません。

私たちは、誰もが希望を持てる社会の実現に向けて取組みます。

●●●●●
全国初の「フードバンク×障害者の就労支援」
●●●●●

私たちは、フードバンク活動に加えて、今年の五月一日より障がい者の就職や復職をサポートする

就労移行支援事業『就労サポートセンターあがいん』を開所しました。フードバンク活動を通じた就労支援事業に取組むことで、障がいのある方の社会参加、地域参加障がいの有無にかかわらず誰もが安心して暮らせる共生社会の実現を目指しています。

『あがいん』の最大の特徴は、フードバンク活動を通して人や社会との豊かな繋がりを肌で感じられるプログラム内容にあります。作業内容は、食糧の受取り、食糧の箱詰めやお届け、在庫整理などの一連の活動を、一人一人の障がい特性に合った方法で、皆が仲間として活動しています。普段自分がたちが食糧を提供している「子ども食堂」や「ホームレス支援団体」に手伝いに行くこともプログラムの一環です。

私たちは、障がいのある方々が「ありがとうねー」と直接お礼を言われるフードバンク活動での経験を通して、自身身の存在意義を再確認し自



▶路上生活者へ

信に繋がればと願うと同時に、誰かの役に立つことの喜びや働く楽しさ、社会参画して人と接することの楽しさ、そして自分を必要としている人がいるという想いから湧く責任感を感じることができ、就職や復職につながる。そのようなサポートはもちろんです。ただでなく、就労サポートセンターあがいんでの経験が、その方の今後の人生において、より豊かな人間関係や社会との繋がりが築けるようになる切っ掛けとなれば、それ以上に嬉しいことはありません。

●●●●●
私たちの想いと協力のお願い
●●●●●

食を食べることが生命を繋ぎ、安定した食糧の存在が争いを無くすと、私たちは考えます。東北には本来、自然の恵みに感謝して「あがいん」(ごつぞお召し上がりください)の精神で、食べ物を譲り合い、助け合う風土がありました。

しかし今、命である食に困っている人々が身近にいます。雇用と同時に住居も失ったホームレスや一人暮らしの高齢者、障がい者、家族の暴力から逃げてきた人等、他人事ではありません。日本の経済格差は益々広がり七人に一人の子どもが生活困窮に陥って将来の芽

が摘まれてしまう。その一方で、おいしく十分に栄養価値のある食べ物、規格外や余剰生産、賞味期限が近いといった理由から毎日廃棄され続けています。日本の一年間の食糧廃棄量は、国連が飢餓で苦しむ方々へ支援している二年間分の量になります。

このフードバンク活動は、食糧を無償でご提供いただき、無償でお届けするため事業収益は一円もありません。これからも続けるためには、皆さまからの寄付金と食料寄贈が必要です！ぜひ、ご協力いただけますようお願いいたします。また、ボランティアも随時募集しております。なお、就労サポートセンターあがいんのご利用やご見学は、随時大歓迎です。

これからも皆さまと共に「温かい希望がもてる社会」を創っていきたいと思っております。



◀施設にも宅配

NPO法人ふうどばんく東北AGAIN
富谷市成田8-1-1
●TEL : 022-779-7150
●FAX : 022-774-1410
●URL : <https://www.foodbank.or.jp/>